

営農君のいきいきアドバイス

マルチ資材・被覆資材について ～目的と注意点～

野菜を栽培するには種子や肥料など多くのものを使用しますが、よく使われるものにマルチ資材や防虫ネットなどの被覆資材があります。今回は主な資材の目的と使う際の注意点を紹介します。

1. マルチ資材

マルチ資材は土の上にポリエチレンなどのシートを直接覆って栽培する資材です。目的は、土の乾燥防止、地温の確保や抑制、病害虫や雑草の防除などがあげられ、マルチの種類によって異なります。黒色マルチが多く使用されています。安価で雑草防止などに効果は高いですが、夏期に使用すると地温が高くなるため、発芽が不良となる場合があります。その他に白黒マルチ(写真1)、シルバーマルチ、光を通す透明マルチなどがあります。また、植穴が空いたマルチも販売されています。

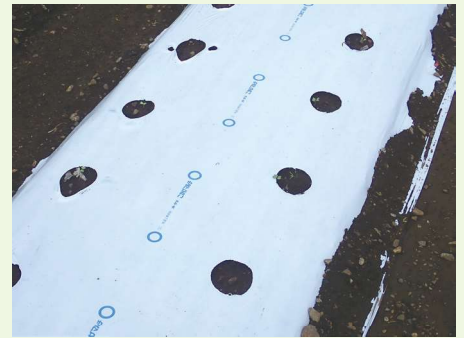


写真1 白黒マルチ

2. 被覆資材

(1) トンネル用資材

トンネル支柱などを立て、資材をトンネル状に被覆して野菜を栽培します。被覆資材には次のようなものがあります。

① 保温用トンネル資材

ハクサイなどの冬期の寒害防止、早春に播種するダイコンやエダマメなどの保温、生育促進のために使用します。例として、透明な資材「ユーラック」などがあげられます。トンネル内の温度を上げすぎないために換気穴が開いた資材(写真2)が多く利用されています。



写真2 保温資材(有孔)

② 防虫ネット

網目状の資材で、野菜を害虫から守るために使用するものです(写真3)。ネットの目合いはいろいろなサイズがありますが、1mm目合いが一般的です。防除できる害虫と、できない害虫は表1のとおりです。被覆する際、重要なのはネットと地面の間に隙間をつくらないことです。隙間があると害虫が入ってしまいます。ネットの裾に土をかぶせるなどの方法がよいでしょう。

表1 防虫ネットの目合いと侵入を防止できる害虫

ネットの目合い	害虫の種類
1mm	コナガ、ハイマダラノメイガ、ヨトウムシ類、モンシロチョウ、カブラハバチなど
0.8mm	上記(1mm目合い)の害虫、アブラムシ類
上記の目合い(1及び0.8mm)では侵入を防止できない害虫	アザミウマ類、コナジラミ類、キスジノミハムシなど



写真3 防虫ネット

③ 遮光資材

高温期に使用し、地温を下げて発芽を安定させたり、日射を遮ったりする目的で用いられます。この資材の特徴は遮光率が高いことです。例えば、「黒寒冷紗」の遮光率は50%程度です。遮光資材は一時的に使用することが多く、発芽後や生育の状況によって適時除去しましょう。

(2) べたがけ資材

保温、生育促進、防寒などのため地面や作物上に直接被覆する資材です(写真4)。JAでは「まもるくん」や「パオパオ90」などの不織布を取り扱っています。一般的には晩秋～早春に使用します。なお、この資材はトンネル用資材としても利用でき、防虫効果もあります。

被覆資材などは保温、生育促進、雑草防除、害虫防除などが期待されます。目的にあわせて使ってみてください。



写真4 べたがけ資材